

汚さないこと、地域の気象に合った自然の植生を大事にすることなどがあげられます。

・社会―日々の生業が見える豊かな風景を生み出す

主な対象は、農林・工業・商業などの産業や道路・線路・河川・開発などに係わるものです。これらは景観に占めるボリュームが大きく、土地や自然の改変を伴います。特に森林の減少・水質汚染・生態系の分断など周辺の環境に著しい影響を与えます。

社会景観の主な考え方としては、産業や開発は経済に左右されるので、つくる時は土地の改変を最小に留めるなど周辺の景観との調和を考え、撤退した場合は、施設や跡地を速やかに元の自然へ戻すことが基本となります。

・生活―歴史・文化などの伝統が息づく風景を生み出す

市内には、豊かな緑と農家を中心とした集落景観、歴史的建造物など伝統的なたたずまいなどがたくさん残っています。町には、これらの地域特有の景観資源と新しい建物も当然混在しています。生活景観では、固有の文化の継承

と新たな景観構成要素との新旧が調和する生きいきとした景観形成を目指します。



国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された市内真壁地区のまち並みには、静かなたたずまいを残す歴史的建造物が数多くあります

います。町の中は当然ながら緑が少ないので、生活に潤いを与える緑を大切に育む必要があります。

■誇りのもてる地域社会の実現

何のために景観まちづくり政策を進めるのかを考えることは、とても大切なことです。特に、景観まちづくりでは、市民一人ひとりの見識や行動に期待するところが大きく、その行動が大きな流れや常識となり、景観まちづくりを進めるための原動力になると考えるからです。



まち並みを保存していくため、ボランティアで活動している市民の皆さん

生活景観形成の主な考え方としては、集落や町のたたずまいが市民や訪れる人々に信頼を与える存在であるために、地域の顔としての役割を担わせる必要があります。中でも街路やまち並みは、地域の顔としての役割を大きく担

のことが景観まちづくりを進める上で、一人ひとりが得られる表面的ではない、真の報酬だと言えます。なぜなら、「好きな故郷に誇りをもって暮らすこと」以上の心の贅沢・満足・幸せはないと考えるからです。

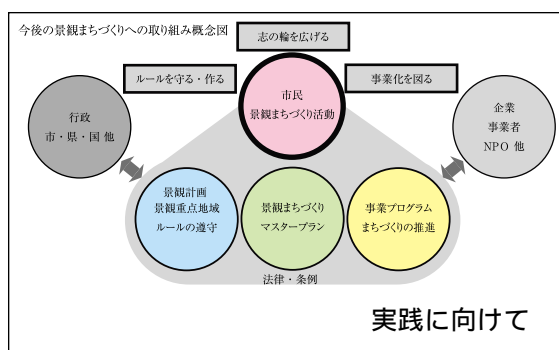
誇りのもてる地域社会とは、地域の環境とコミュニティに起因するものです。桜川市では、今後、景観まちづくりを通じて、市民が誇ることのできる地域社会を実現していきたいと考えます。

■今後の取り組み

景観まちづくりは、一般のマスタープランを皮切りにして、今後も持続的な展開を図っていきたくと考えています。まずは、志の輪を広げていくことです。本マスタープランを含めた景観まちづくりの広報や学習の機会づくり、市民と協働の計画づくりを図っていく予定です。

次に、ルールを守る・つくることを進めていきたいと考えています。景観まちづくりの具現化には、最低限のルールは欠かせません。さらに、景観まちづくり事

業を進めていきたいと考えています。政策を進めていくために具体的な事業は必要です。例えば、市民まちづくり団体の後押しをすることや景観を整えるための公共施設の改修などです。



景観は、短時間で整えていくのは難しく、時間や市民の思いなどによって、少しずつつくられていくものです。今後も、持続可能なまちづくりになるように、行政だけでなく、みんなで進めていきたいと考えています。

■問合先／都市整備課（☎58-5111・75-3111 代表）